

ケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* Hayashi

【選定理由】

寄主植物であるネズミサシが生育するやせた土地に局所的な分布を示す。県内の主要な生息地は、尾張地方北部や東三河南部の丘陵地であるが、里山の荒廃や、宅地造成などによって生息地が減少あるいは悪化している。

【形態】

体長 5.5～8.5mm。青味を帯びた黄白色の毛に覆われた小型のカミキリムシ。上翅には 10～20 程度の黒い小円紋をもつ。

【分布の概要】

【県内の分布】

本県では、春日井、犬山など尾張北部および豊橋、新城から確認されている。

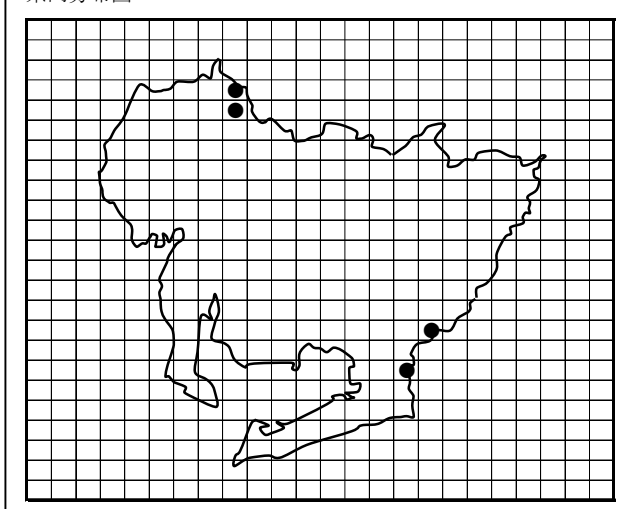
【国内の分布】

関東地方以西の本州に生息する。

【世界の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

生息地は、いずれもやせた丘陵地で、ネズミサシの自生地。成虫は早春と秋に見られ、ネズミサシの葉上などから発見される。幼虫はネズミサシの衰弱木あるいは枯れ木中で育ち、秋に新成虫となる。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の多い種ではないが、生息地そのものが宅地造成などによって減少している。また、生息地の多くは、少なからず人による管理が行われてきた里山で、管理放棄による生息地の遷移の進行により生息環境が悪化している。

【保全上の留意点】

生息環境を維持することが重要であるが、背景には、管理放棄による里山の荒廃という社会的な問題との関連が推定されるので、簡単ではない。

【関連文献】

湯沢宣久・蟹江 昇・河路掛吾・竹内克豊, 1990. 愛知県のカミキリムシ科. 愛知県の昆虫, (上): 389-433. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)